



企業連携インタビュー

東京専門職大学（仮称）への期待

第7回 イオンリテール株式会社

ディベロッパー本部 ディベロッパー企画部 担当マネージャー 足田 佳久氏

2018/8/22

-はじめに、お仕事についてお聞かせください。

これまでショッピングセンターの開発を行ってきました。テナントミックスのプランニング、ショッピングセンターのコンセプトづくりをそれぞれ10年くらいやってきました。その間に次世代型ショッピングセンターを作るようにといわれ、岡田社長に進言するためにヨーロッパやアメリカに何度も行かせてもらいました。最終的な集大成としては、越谷のイオンレイクタウンのコンセプトを作りました。アウトレット含めて、次世代型を意識したコンセプトを作りました。あれは自分としても自己実現させてもらったので、会社にはとても感謝しています。

-レイクタウンは大成功していますね

計画当初は「アリオ」というイトーヨーカドーのショッピングセンターができる时候でした。アリオは郊外型ですから、駅前の中規模な広さでは完全にアリオに負ける、と考え、当初の計画を拡大し、あのような広大なショッピングセンターの計画に変更しました。



元々モール型ショッピングセンターの1号店姫路のリバーシティのテナントミックスプランを作り、パワーセンターの1号店、中国青島の1号店も担当しました。このように、イオンで初めて挑戦する業態の1号店はほとんどまかされてやってきました。

その後、霞が関の日本郵政に3年間出向し複合開発を学びました。商業以外に、ホテル、住宅やオフィスを入れる、という開発手法です。それを活かして、今プランニングに関わっています。

-とても面白そうな仕事ですが、責任は重大ですね。

仕事としては楽しいです。みんながやっていないことなので、自分の意見がすべて通ります。確かに、責任は大きいです。



今の若い人たちには、一番勉強できる時期に、どれだけ勉強したかが重要だということ言いたいですね。知識やIQは大事ですけども、どれだけ勉強に時間をかけたか、どれだけいい考え方を持っているかは大変重要です。色々な考え方を学ぶというのはとても大事です。例えばビルゲイツの考え方、スティーブジョブスの考え方を学び、その考え方をもとに変革にチャレンジしていく。偏差値が高い大学の人は確かに賢いけれど、会社に入ってから大学なんて関係ないです。4年間頑張った人、その努力は将来リターンになって返ってきます。

-保健医療福祉の専門職大学についてどんな感想を持たれましたか

この分野は今から大きく拡大する分野だと思います。東京専門職大学、という名前が気に入りました。東京という名前に加え、専門職、プロフェッショナルという名前がついている。

NHKにプロフェッショナルという番組がありますが、あれを見ている人は多いと思います。わくわくする情報がうまくまとめられて放送されています。これからはプロフェッショナルを自分の目標とするにはいいと思います。

昔はゼネラリストでよかったのですが、今はそれに意味はありません。すべて機械が、AIがやってくれる時代が来るのでしょうか。そうすると本当の意味でのプロフェッショナルが必要とされるようになると思います。専門職の中で私は誰にも負けない、というものを持つことが重要になるのではないのでしょうか。

京都の俵屋という旅館についての本を読んだことがあります。京都を支えている職人さんたちはたくさんいます。畳職人、ふすま職人、瓦職人、色々な分野の高い技術の職人さんたちが俵屋旅館を支えているのです。それを考えると日本もスペシャリスト、プロがたくさんできることによって、国力が高まると思います。プロフェッショナルを若い人に目指してもらいたいですね。色々なプロフェッショナルができるとと思います。そういう人たちが日本を変えていってくれるでしょう。

-障がい者や高齢者の支援や介護についてのお考えをお聞かせください

大学の説明に、障がい者の自立支援などいろいろありますが、そういうことに理解のない人がまだ多いです。社内でも理解が少ない人が多いと感じます。昔はそれでもよかったのです。健常者だけで競争させることは、世界に追いつくためにその時期としては仕方がなかったのかもしれませんが。

ただ今は、オリンピック・パラリンピックと並列でよばれるようになりましたし、日本も考え方は欧米諸国の考え方を取り入れ、グローバル化しています。海外を知ることはとても大事なことだと思います。明治時代に先人たちは海外を見て、日本に取り入れていきました。我々も次世代型ショッピングセンターを作るときは半年に1回欧米に行き、真似できるものは真似しようと取り入れました。欧米の発想は日本人にはないんです。



今後さらに日本は高齢化しますが、後期高齢者になった時点で、多くの人は無理ができない状態になるのが一般的なのではないでしょうか。

そうなると例えば、髪を植毛する、歯を入れる、などして見た目を若く見えるようにする、といったことも、もっと進めていいのではないかと思います。もちろん、食べられることも大切です。医療や介護では、未病というのも大切です。

当社グループのショッピングモールでは、「ハピネスモール」という地域のお客さまのウェルネスにかかわる活動をしています。健康なライフスタイルを目指す、ということでアンチエイジングも重要です。

東京専門職大学には、人々の目線が上がってくるときに、どういうプロフェッショナルを目指すのかということをいろいろな先生方に教わり、学生の目線を上げていくことを期待します。

-本学で学んだ学生は、産業界から求められる人材でしょうか

先ほど申し上げた通り、イオンではウェルネスを重視しています。ウォーキングが好きだったり、親と一緒に山登りに行ったり、健康志向な人は多くなってきています。福祉と介護を学ばれるわけですが、今の世の指向は健康志向になっていますから、我々の業界ではそれにかかわる知識を持っている人はとてもウェルカムです。

すべての産業界にとって、介護を知っているのはベースになってくるでしょう。そういった知識は、商品につながっていくでしょうし、ニーズとしてありますから。また、人事という観点で見れば、すべての会社で不可欠な知識ですね。この大学で学ぶことは、全産業界にとって必須な科目になるんだろうなと思います。

-カリキュラムについて感想をお聞かせください

地域活性化やツーリズムに非常に惹かれました。地方創生が掲げられていますが、地域の活性化にツーリズムは有効だと思います。訪日外国人旅行者が増えています。地方では祭りの担ぎ手がないなど、資産を活用できなくなっています。

ロボットや福祉機器についても必要だと思います。老々介護になり、70代で自分の親の世話をしなければならないときに、パワースーツがあれば楽ですよ。パワースーツは相当世の中を変えていくのではないかと思います。ロボッ





トは中小企業がものすごく頑張っています。大企業がその知恵をうまく取り込んでいけば、拡大するのではないのでしょうか。大企業の方々はヒエラルキーで固められており、中小企業の方々のほうが、世の中を変える力や考え方を持っているように思います。

障害、難病、ノーマライゼーションについては昔からずっと考えています。私は知的障がい者の団体に昔からボランティアに行っています。知的障がい者をあまり知らない方がほとんどだと思いますが、知的障がい者といっても千差万別です。それを「知的障がい者」としてひとつにくくられてしまうのは問題です。そういうことを色々なところに行って、大学4年間で学んでほしいです。アメリカでは、例えばハーバード大学でもボランティアを重視していますよね。

最近は核家族で自分の祖父母に会う機会が少ない人が多いと思います。そのため、高齢者について知らない人が多い。これは交わったほうが良いと思うのです。そこで、老年学をやった方がよいと思います。いま大学で老年学を教えているのは、お茶の水女子大学、関西学院大学などで、あまり多くないと思います。日本は高齢化しているのですから、老年学を学ぶ必要があるのではないのでしょうか。年を取るとどうなるのか、肉体的だけでなく精神的にもどうなるのか、どうすればそうならなくて済むのかを学ぶことも必要でしょう。

アメリカで高齢者の施設が大学の横に設置されているところがあります。若い人に接する機会を作ると、若返るのではないのでしょうか。大学にせつかく若い人が集まるのですから、若い人に高齢者に接する機会を持ってほしいです。皆が自然に理解できるようになるといいですね。

-展開科目についてお聞きします。経営については、どんな感想を持たれましたか？

経営については知っておいた方がよいと思います。今後企業は年功序列ではなく、緩やかな関係でいたいと思うようになります。就職後、転職することが当たり前になってくる。在宅勤務も普通になるでしょうし、色々な働き方が出てくる。自分がどうしたいのか、サラリーマンをしながら会社を作ることもできます。そうすると、経営を学ぶことは重要です。

今は情報を入手することが簡単になりましたから、会社に入る前に業界の基本的な知識を得て入ってくるのができますし、そうやって欲しいと思います。ざっくりとした知識を大学時代に得て入ってくるのと、全く知らないのではだいぶ違います。経営の科目では、そういう観点で教えてもらいたいと思います。

日本ショッピングセンター協会では冠講座をやっています。大学で半期2単位の授業で、いろいろな企業などから講師が来て教えます。

貴学の経営の授業で1回授業をやるのもあり得ると思います。その会社が何を考えているか、など生で分かります。以前私が担当した授業で海外の事例を話したところ、先生に言われ興味を持ったので行ってみました、というメールを後でもらったこともあります。



-隣接他分野の科目についてはいかがでしょう

「美容」も面白いと思います。当社グループでは、「イオンスマイル」というリハビリデイサービスも展開しています。「イオンスマイル」はショッピングセンター内にありますから、ボランティアの方々などがデイケアに来た方々をショッピングセンターに連れていくことができます。高齢者の方々も自分自身で商品を選んだり、買い物も自分でしたいんだと思います。

デイケアセンターに来た人々をショッピングセンターに連れていくようになると、お化粧をするようになった、という話を聞きました。若い人たちがいるところにいると、年をとっても女性は女性でお化粧をしたいのだと思います。年をとってもかっこよく年を取りたい、きれいに年を取りたいということがあるのでしょうか。そういう感情があるので、若い人に接する機会があるとお化粧をするんだと思います。

災害行政について学ぶことも大切だと思います。イオングループは石巻にショッピングセンターがあります。東日本大震災の際、フードコートに 2,400 人くらいが避難されてきましたので、食事や毛布などを提供しました。後で店長や GM から聞きましたが、その当時は本部に電話をしてもつながらない、マニュアルも何もない、という状況だったそうです。そこで店長は、自分がマニュアルだと思いなさいと言ったそうです。正しいと思うことをしなさい、ということだと思います。実は、ショッピングセンターは災害時には鍵を閉めなければならないのです。それをせず、来た人の中に入れ、自家発電で暖房をつけ、毛布も売り場から持ってきた。最終的には首になってもいいと思ったそうです。

災害行政とは違いますが、このように自分が災害の当事者になったときに、自分の立場を考えられ、被災者を救えるかを考える。そういったことをシステムとして考えられることは重要だと思います。

これからショッピングセンターも、図書館が併設されたり、介護関係の施設ができたりというものが増えてくるでしょう。我々はショッピングセンターを社会的なインフラに変えたんです。なくてはならないものに。そうすると、災害の時の避難所にもなる。石巻はそういう例を作ったと思います。ショッピングセンターであるけれど、大きくはソーシャルコミュニティになったらいいなと思っています。今後はショッピングセンターと施設が融合していくと思いますので、そのときにはプロフェッショナルがより必要になると思います。

インタビューご協力いただきました疋田様、大変ありがとうございました。